

1.調査目的等

・義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
 ・そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
 ・学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

2.学校ごとの指標

【短期指標】

□ 平成30年度4月、全国学力・学習状況調査において、「国語A:100、国語B:97、算数A:100、算数B:97」を上回る。

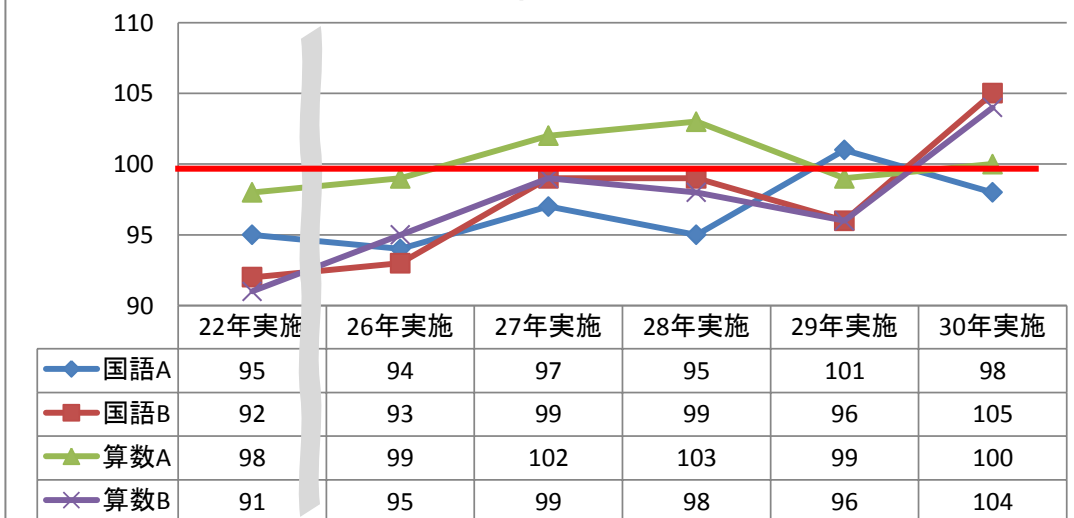
3.指標に向けての取組

- 「根拠に基づいて自分の考えを書く活動」を大切にした日常授業の改善を行う。
- 複数体制による算数科の学習指導(全学年)を実施する。
- テスト後に「補充の時間」(算数科)を設定する。
- 朝のチャレンジタイムで「活用力」を高める問題に取り組ませる。(指導は、複数体制。)
- 全国及び県学力テストの分析を踏まえ、復習・習熟を図る。(チャレンジタイム、家庭学習等)
- 漢字・算数検定を実施する。
- 家庭学習頑張り週間を設定する。

4.調査結果(全国の平均正答数を100としたときの文科省標準化得点)

	国語A	国語B	算数A	算数B
本校	98	105	100	104
嘉麻市	97	99	97	98
全国	100	100	100	100

推移



5.各学校における分析

- 算数A及び算数B、国語Bに関しては、短期指標を達成することができた。特に、算数Bは、全国平均を4点、国語Bに関しては、全国平均を5点上回ることができた。要因としては、「根拠に基づいて考えを書く活動」を授業に、また、「活用の問題を解く時間」を朝のチャレンジタイムや家庭学習に取り入れたことにあると考える。
- 国語Aに関しては、全国平均に対し－2点の開きがあった。要因は、指定された漢字は書けるものの、文章に応じた漢字を適用する力を十分に付けきれていなかったことにある。また、算数A問題に関しても、1点の伸びに留まった。基礎基本の定着の工夫を図る必要性がある。
- 児童質問紙から、平日の家庭学習時間「10分×学年数＋10分」を約9割の児童が実行している。家庭学習の習慣が定着してきていることが分かる。
- 児童質問紙から、読書をする習慣が全国と大きく開いていることが分かり、課題である。

6.各学校における今後の取組

- 日常の授業における「根拠に基づいて自分の考えを書き、それをわかりやすく説明できる力を育てる」取組の、さらなる推進。《継続》
- 基礎基本の確実な定着のための取組、及び単元テストの結果を踏まえた補充学習の実施。
 - ・漢字、算数検定の実施。《継続》
 - ・朝のチャレンジタイムや家庭学習での、過去問やフォローアップシートの活用。《継続》
 - ・テスト等を活用した補充学習の実施。《継続》
 - ・単元終末段階における習熟度別学習の推進。《新規》
- 家庭学習時間「10分×学年数＋10分」の徹底。(提出率、90%以上)《継続》
- 家庭学習頑張り週間の定期的な設定。(学期に1回以上。)《継続》
- 読書の推進。
 - ・週末読書の取組(月曜の読書記録提出率80%以上。)《新規》
 - ・鍛ほめを活用した読書活動の推進。《新規》

7.嘉麻市教育委員会としての今後の取組

[嘉麻市学力向上推進プランに基づき、学力向上検証改善委員会を核として学力向上具体策の浸透・徹底を図る。]

嘉麻市教育アクションプラン、嘉麻市学力向上全体構想、各学校学力向上プランの関連を明確にし、具体策を全ての学級に浸透させる。

短期検証改善サイクルの実施状況を把握し、好循環に向かうよう適時性のある指導を継続する。

学力向上プランの実効性を高めるための指導助言を行うとともに、各学校における効果的な実践の普及に努める。

指導と評価の一体化を図り、特に単元終末段階における習熟度別学習の充実を支援する。

繰り返しの指導が計画的に実施されるよう、カリキュラムマネジメントを推進する。

家庭学習の個別化を推進するとともに、取組に具体的な指標をもたせ、進捗状況を把握し支援を行う。

主幹教諭研修会を小中別分科会とし、それぞれの学校種の課題に即応する研修内容を工夫する。

